令和 3 年 市長年頭訓示

皆さん、あけまして、おめでとうございます。

コロナ禍で厳しい状況の下、緊張感いっぱいの新年であります。こうして、御挨拶をできることを有り難く思います。

まずは、年末年始も、市民の命と健康、暮らしを守るため懸命に職務に当たっていただいた皆さんに頭の下がる思いであります。ありがとうございます。

昨年を振り返りますと、「挑戦と改革」を掲げ、市民の皆様の信託の下、4期目をスタートさせた年でありましたが、「コロナ」と「危機的な財政」という、かつてない大きな課題に、皆さんと共に全身全霊を捧げてまいりました。

「市民の皆さんのいのちと暮らしを守り、京都の今と未来に責任をもつ。」

私が就任以来、最も大切にしている理念ですが、昨年ほど強く意識した年はありません。

まずは、「コロナ対策」。「正しくおそれる」。

本市が誇る333人の保健師の皆さんをはじめ全庁一丸となり総力を結集し、相談・医療・検査体制の抜本的な拡充、さらには、クラスター指導チームによる徹底指導など、本市独自で、また、国や府、医師会、医療関係者をはじめ多くの方々と連携し、対処していただきました。

また、市民生活を守るため、中小企業、小規模事業者、地域企業、さらには、文化芸術家の方々へ支援。

これまで市会で議論を重ねていただき、7度にわたる補正予算を組み、最も困っておられる方々に、また、京都の宝であるこれらの方々に寄り添った支援を行ってまいりました。

さらに、「危機的な財政」。

本市は、これまで、行財政改革を徹底のうえ、国や他都市の水準を上回る福祉や子育て支援、教育、安心安全などの施策を推進することにより、都市格を大きく向上させ、経済を活性化・市民生活の豊かさ実現に頑張っただけではありません。その成果も着実に現れてまいりました。

しかし、京都の都市特性により、長きにわたって、他都市よりもぜい弱な税収構造であったため、宿泊税の新たな導入など、独自財源の確保にも取り組みましたが、今般の新型コロナの影響等もあり、今、危機的な財政状況にあります。

このままでは「財政再生団体」となり、国や他都市を上回る施策は一切できなくなり、市民生活に大きな影響を及ぼすことになりかねません。

この危機を乗り越え、市民の皆様、多くの関係者ととともに、これまで作りあげてきた、魅力あふれる京都を、子ども・若者、子育て世代から高齢者まで、全ての世代の方々が将来にわたって、安心安全で暮らしやすいまちとしていくため、何としても「財政再生団体」に陥ることを回避し、持続可能な行財政の確立・改革に、今、取り組まなければなりません。

早期に財政健全化への道筋をつけるため、あらゆる施策をゼロベースで点検する。令和3年度から5年度までの3年間を特に重要な「集中改革期間」

と位置づけ、これまで未着手の分野にも大胆に改革を断行してまいります。その際、丁寧な説明が大切であります。これまでの取組に重ねて新たな視点での改革が必要であります。また、厳しい財政状況の下にあっても、市民の安心安全に万全を期すため、職員の人件費についても、短期的な抑制を実施せざるを得ないと考えています。

コロナ禍の下、献身いただいている職員の皆様に大変心苦しい限りではありますが、御理解を宜しくお願いします。

この間、コロナ禍と未曾有の財政危機の中、改めて実感したのは、市民の皆さん、職員の皆さんの京都に対する熱い熱い思いであります。地域のリーダーの方々が、今やれること、やらなければならないことをやろうと挑戦される。また第一線で活躍する職員の皆さんが使命感に燃える、実践力・チームワーク力を見事に発揮していただいている。感服しています。

「危機の時こそ、人は成長し、都市は前進する。」

京都の千年の歴史は、疫病と自然災害との闘いでありました。さらに社会制度の変革による都市存亡の危機を、市民力・地域力・文化力をいかして乗り越え、より魅力的なまちづくりを進めてきました。まさに「レジリエント・シティ」であります。

どのような課題や危機であっても、必ず解決策を見出すことができる。そして、解決できる。苦しい時にこそ、職員力、人間力、チームワークの真価が問われる。

この危機を乗り越え、ウィズコロナ社会において、京都を、「新たな生き方、働き方、都市の在り方のモデルとする」。決意を新たに共に頑張ってまいりたいと思います。

新年に当たり、皆さんに挑戦いただきたいことを2つに絞り申し上げます。

1つ目は、「誰ひとり取り残さない」SDGsの理念の共有と更なる実践であります。コロナ禍により、貧困、孤立、格差、そして環境破壊・地球温暖化など、さまざまな社会的課題が顕在化、あるいは加速しております。厳しい財政状況ではありますが、こうした困難な課題に市民ぐるみで真正面から立ち向かってまいりたい。

京都市は昨年度、全国に先駆けて「2050年CO₂ゼロ」を宣言。今、全国200以上の自治体に広がり、国においても菅総理が宣言されました。本市では条例化もいたしました。京都議定書誕生の地、またパリ協定実行に向けた「IPCC京都ガイドライン」採択の地としての誇りと責任をしっかりと胸に刻み、世界の脱炭素化をリードする取組に、共に挑戦してまいりましょう。

2つ目は、「持続可能な行財政の確立への挑戦」であります。

コロナ禍の下、あらゆる面で本質に迫った改革が必要です。また、持続可能な行財政のためにも必要であります。現在、持続可能な行財政審議会において、公開の下、徹底した議論を行っていただいております。京都市情報館

で議事録等を公開していますので、ぜひ読んでいただきたい。そして、あらゆる施策の本質的な目的に立ち返り、持続可能なものとなっているかどうかなど、縦割りを排して自由闊達な議論をお願いしたい。

そのためにも、風通しのよい職場づくり、働き方改革が重要であります。「人にやさしいデジタル化」、環境に負荷をかけない施策や仕事のあり方、こうした視点もしっかりと融合し、職員一人ひとりが、自分ごととして、過去の延長ではない改革に挑戦していただきたい。

結びに、コロナ対策について。

市民の皆さんの命と健康、暮らしを守るために、現場の実態を徹底して見極め、そして、先手先手の取組を進めてまいりましょう

また、今年は丑年であります。丑は力強さ、粘り強さ、誠実さの象徴であります。

牛のように確実な歩みで、課題解決に挑戦し、大きな成果を挙げるため、全庁一丸となって挑戦する一年にしてまいりたい。

常日頃、懸命な御尽力をいただいている皆さんに心から敬意を表し、この一年を新たな改革スタートとするため共々に努力することを誓い合い、新年の挨拶とさせていただきます。

よろしく申し上げます。